

カタカナ語を利用した英語語彙指導

竹内 研四郎¹⁾

English Vocabulary Teaching by Utilizing ‘English’ in Japanese

Kenshiro TAKEUCHI¹⁾

Abstract

Increasing numbers of English loanwords (*katakana-go*) are used in Japanese recently. There are pros and cons as to whether or not to accept *katakana-go*. However, it is a fact that they have become an integral part of the Japanese language. Some are useful for Japanese students to increase their English vocabulary, because students already know the meaning of these loanwords to some extent, either correctly or incorrectly. What is required is adequate assistance to help the students use these loanwords correctly in English. This study aims to examine how to help students increase their English vocabulary by incorporating these loanwords into their English vocabulary with correct English usage. Some of the problems that students have are mistakes in spelling caused by phonetic differences between English and Japanese. For example, students have difficulties distinguishing ‘l’ and ‘r’ sounds not only when listening and pronouncing but also when spelling, resulting in such misspellings as in ‘lirax’ for ‘relax’. The same thing can be said about the letters such as ‘s’ and ‘c’ when students try to write them. Other problems are caused by pseudo-loanwords (*wasei-eigo*) coined in Japan, which sound like loanwords from English, and lead to students being tempted to use them without thinking. This may result in communication breakdown, for which this study is to find a breakthrough.

Key Words: 学習指導要領, 語彙指導, カタカナ語, loanwords, 和製英語,

1 はじめに

外国語の学習において、語彙学習の重要性は誰もが指摘するところである。語彙指導の方法論には、主に、リーディング・リスニングの学習過程において付随的に習得できるとする考え方と、直接的に語彙指導を行うことを重視する考え方がある。初期の学習者には、後者が有効であるとされている。²⁾ 本稿は、後者の立場によるものである。

学習者が習得すべき語彙数に関しては、文部科学省の学習指導要領にその目安が示されている。現行の中学校学習指導要領は、平成10年12月に告示され、平成14年度から実施された。それにより、学生が中学校で学習する語彙数が、「1000語程度」から「900語程度」に減少した。同指導要領の目標に「実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」と掲げられているが、学生が英語でコミュニケーションを行おうとするときに直面するのが語彙不足である。その後、平成20年3月に学校教育法施行規則が改定され、それに伴い新中学校学習指導要領が公示され、平成24年度4月から実施されることになっている。その中では、中学校で学習する語彙数が「1200程度」と増加され、改めて文部科学省が指導語彙数増加の必要性を認識したことになる。あわせて、高等学校で学習する語彙数も、現行の1300語から1800語に増加され、高校卒業時まで

3000語を学習することになる。本稿では、学生に3学年終了時まで3000語を習得させることを直接の目標とするのではなく、学生が日常的に使用している「既知の英語」であるカタカナ語を、英語として活用できるようにすることで、学生の語彙力を効率よく向上させることを意図する。すでに、カタカナ語として日本語の中に定着している「既知の英語」すなわち「カタカナ語」を、英語として正しく使えるように指導すれば、まったく未知の新出単語を覚えるよりも、単語力を増すのに学生の負担は軽くなると思われる。本稿では、カタカナ語と本来の英語との意味のずれや用法の違いなどに学生の注意を向けさせ、指導上の問題点を具体的に考察し、具体的に指導法を構築する。基礎力向上の第一段階として、次の3点を指導目標とする。① 英単語のつづりが正しく書ける、② 英単語の表す概念を想起できる。③ ②の結果として、対応する日本語の訳語を書ける。

本稿で意味するカタカナ語とは、「英語を起源として、現在使用している日本語の中で、カタカナで表記されているもの」を示す。従って、パン、ズボンなど英語以外の外国語を由来とするカタカナ語は、本稿の対象からは除外であるが、ただし、いわゆる「和製英語」のカタカナ語は、本稿の趣旨からその対象とする。

今回は、上記の3点を語彙指導の第一段階と定め、そのために作成した教材とそれを通じて得られた今後の指導上の留意点をまとめることにする。特に、本稿では、発音

1) 東京都立産業技術高等専門学校 一般科目

2) 林 洋和、「第2章 直接語彙学習と間接語彙学習」『英語の語彙指導』溪水社、pp. 23-57

とスペリングの関係に関する考察に限ることとした。発音上とスペリング上の問題と言っても、エネルギー(energy)、ウィルス(virus)、ワクチン(vaccine)のように全体が根本的に発音が異なる語ではなく、日本語の「ラ」行音に対するスペリングの違いなど、基本的な項目に限った。

単語の短縮や意味のずれ及び文法上の変形などその他の問題については、稿を改める。

2 カタカナ語の収集方法と分類方法

一般的には、カタカナ語の収集対象として、新聞・雑誌・小説やテレビ・ラジオなどのメディアからの収集が考えられる。今回は、学生にとって「既知の英語」である「カタカナ語」を利用するため、学生自身から収集した。平成21年度前期に、「カタカナ語を利用して単語力をつけよう」と題してプリントを配布し、その趣旨を説明して、学生の「知っているカタカナ語」を収集した。1年2クラス、2年1クラス、3年1クラス、4年2クラスから収集した。平均して、1クラス40名弱だ。合計約240名に上る。学年・所属コース・学生から様々な「カタカナ語」の資料を得られた。その中から筆者の判断で英語教材として汎用性があるものを選んだ。また、パソコン用語のように、学生が知っている単語を普遍化して一般的な語として利用できるような語は、積極的に取り入れた。例えば、「ツール」などは、a tool of communicationのように一般的に利用できる。

収集した語は、予測通り名詞が多い。便宜上、名詞は原則的に名詞として分類した。一方、指導上、教材として使いやすい品詞としての分類も試みた。例えば、bookは、通常名詞であるが、「ダブルブッキング」の「ブック」は、「予約する」という意味の動詞である。bookが動詞として、「予約する」意味があることは、学生は意外と知らない。主にイギリスおよびオーストラリアやニュージーランドでも使用される。学生の誰でも知っているbookの持つ、このような意外性も指導に役立つ。その他、必要に応じて分類項目を作り、随時分類していった。例えば、前述の‘book’のように名詞でも動詞としての用法があるものは動詞の分類にも入れ、形容詞としての用法があるものは、形容詞としても分類した。また品詞以外でも、指導上、説明が必要と思われるものは、その基準項目を作り、分類した。例えば、マスコミ(mass communication)などのように短縮されたものは短縮形として分類した。また、マナー(manners)、サングラス(sunglasses)などように、単数・複数の観点から指導すると効果的な理解が得られる例もある。また、フライドチキン(fried chicken)、ステンドグラス(stained glass)などは、過去分詞の形容詞用法として、文法教材としても提示可能である。

学生が書いたカタカナ語の中には、いわゆる「和製英語」も含まれる。これは「和製英語」として一項目を設定できる。和製英語は、そのままでは、英語として用いることは

できないが、正しい英語としての表現を教えれば、逆に変なカタカナ語を英語として覚えてしまう弊害を取り除くことに役立つと考え、和製のカタカナ語も対象とした。

教材としては、「学校生活」、「日常生活」、「旅行」などの汎用的なカテゴリーに分類し、カタカナ語のキーワードを英語に直して、英作文に利用できるようにまとめた。

3 カタカナ語を語彙指導に利用する場合の留意点

3.1. 発音とスペリングの問題

日本人が、発音する場合の困難点は、スペリングを書く場合の困難点でもある。母音と違い、子音の場合は、唇の形や舌の位置などの調音上の特徴を説明して、ある程度スペリングと関連づけることができる。すなわち、発音指導をきちんと行うことが、正しくスペリングを書けるようになる基本とも言える。次に、英語の「子音」に対応するスペリングの指導主な注意点をあげる。

(1) 日本語の「ラ」行音に対するスペリングに注意させる。

[r]音と[l]音の発音の仕方とスペリングの関係を指導する。

日本語の「ラ」行音を表すスペリングを間違える学生が多い。発声を唇の形で説明すると分かりやすい。

[r]と[l]音の発音指導の場合、従来は舌の位置に重きが置かれていたが、唇の形も重要な要素である。[r]音の場合は、唇を丸めて、日本語の「ウ」を発音するようにさせる。[l]音の場合は、唇を横に引っ張るような形で発音させて、スペリングと関連づけ、書く指導をする。唇の形が丸くなるときは[r]、唇が横に引っ張るような形で発音するときは、[l]なので、それをスペリングに反映させる。語頭に来る場合と語尾に来る場合には、同じ音素

(phoneme)ではあるが、異音(allophone)³⁾なので、語頭に来る場合を指導に利用する。

前期に、教科書の試験範囲にあるカタカナ語を書かせるテスト⁴⁾を行った。「リラックス」に対するスペリングとして以下の結果を得た。被験者は、31名。右の数値はその人数を示す。

relax 8 lirax 3 rilax 2 relacs 2
rilax 2 relux 2

以下、1名ずつ lirux, reraucse, riraks, relaxe, liracks, rirax, liruax, rilux, lirax 残り3名は無解答であった。

正答を含み、語頭音を、[r]と意識した学生は、全体の75%。[l]と思った学生が、同25%であった。授業時には、できる限り舌の位置や唇の形など、調音方法を具体的に指導をしている。[r]と[l]の発音に関しては、前記

³⁾ 例えば、littleの語頭と語尾の‘l’の発音は異なる。

⁴⁾ 巻末資料1

のように、唇の形を意識するよう指導している。その指導の結果を試験するために、学生から得た誤答例を選択肢に入れて、後期と同じクラスで巻末資料2のテストを行った。解答例を以下に示す。被験者は、28名。

ア) lilax 0名 イ) lelacs 5名 ウ)

relax 23名 エ) relaks 0名

語頭音に[r]音を選んだ者が82%であった。[l]音と判断した者は18%となった。今回のテストはスペリングを書かせるのではなく、語頭の[r],[l]音の選択に集中させるため、上記ア)～エ)の選択肢を用いた。

[r]音と[l]音の発音の仕方とスペリングの関係を意識させるカタカナ語例

little などのように、語頭と語尾の[l]場合は、同じ[l]でも異音となるので、学生の分かりやすさのために、語頭音を指導に利用するとよい。初めは、ライト(right, light), レース(race, lace)などで、対比させ、次の語を用いて、発音練習をさせる。

1) [r]音：日本語の「ウ」を発音する時のように、唇を丸めて[r]を発音させる。そして、唇を丸めて発音する場合の「ラ」行音のスペリングは‘r’の場合が多いことを意識させる。(例外もある。‘lose’は後続母音[u]の影響で、唇を丸くする)

レポート(report)	レギュラー(regular)
レシーブ(receive)	レスキュー(rescue)
リーズナブル(reasonable)	リスク(risk)
レンタル(rental)	レコード(record)
ロマンチック(romantic)	

2) [l]音：唇を左右に開き、舌尖を前歯の歯茎につけて発音する。唇を横に広げて発音する場合の「ラ」行音のスペリングは‘l’の場合が多いことを意識させる。

リスニング(listening)	リミット(limit)
リーダー(leader)	レイアウト(layout)
レクチャー(lecture)	レーザー(laser)
ライフワーク(lifework)	ローカル(local)
ライター(lighter)	

(2) 日本語の「バ」行音に対するスペリングに注意させる。

日本語では、[b]音と[v]音を、カタカナ語表記ではそれぞれ「バ」と「ヴァ」で対応させて区別する場合もあるが、学生には区別しにくい。実際、英和辞典でもvolleyballの日本語表記には「バレーボール」を用いている。versionの場合も同様で、「バージョン」の訳語が与えられている。[v]は、上歯を下唇に軽くあてて、呼吸を摩擦させて発音する摩擦音(friction)で、日本語にはない音である。そのため、多くの場合、[v]にも「ブ」の文字を用いているので、学生がスペリングを書く場合に注意させる必要がある。

る。

[b]音と[v]音の発音の仕方とスペリングの関係を意識させるカタカナ語例

1) [b]は有声両唇破裂音(voiced bilabial plosive)、または両唇閉鎖音である。この音は日本語にあるので、学生にも理解させやすい。

バイメタル(bimetal)	バイリンガル(bilingual)
バスケットボール(basketball)	バンパー(bumper)
ビジネス(business)	ボーダーライン(borderline)
ボーナス(bonus)	ボクシング(boxing)
ボディ(body)	

2) [v]音は、意識的に上歯を下唇に軽くあてて、呼吸を摩擦させて発音する指導が必要。

バーチャル(virtual)	バケーション(vacation)
バリュー(value)	ビデオ(video)
ボイスレコーダー(voice recorder)	ボーカル(vocal)
ボキャビュラリー(vocabulary)	ボランティア(volunteer)
	バリエティー(variety)

(3) 「カ」行音に対するスペリングに注意させる。

「カ」行音には、-c-, -ch-, -k-, -q-などのスペリングが対応する場合が多い。

語頭に「カ」音が現れる場合は、ほとんどがc-で始まる。k-で始まる場合もあるが、どちらも、発音するときに、唇を極端には丸めないのが特徴と言える。

それに対して、-q-音の場合には唇を丸めて発音することを学生に意識させて、スペリングと関連付けさせるのがよい。次の語を発音させて、唇の形の違いを認識させる。前者2語を発音するとき唇は丸くならないが、後者-q-を発音するときは唇を丸める。

カット(cut)	キック(kick)	クイック(quick)
----------	-----------	-------------

発音とスペリングを意識させるためのカタカナ語例：

語頭の「カ」行音で、語頭がc-で始まる語：後に続く音にもよるが、唇は丸めない。

カーテン(curtain)	カスタム(custom)
カメラ(camera)	カレンダー(calendar)
カートリッジ(cartridge)	カウンター(counter)
キャスター(caster)	キャッシュ(cash)
キャプテン(captain)	クリーム(cream)
クリーニング(cleaning)	クラス(class)
ケース(case)	ケアレス(careless)
ケミカル(chemical)	コンピュータ(computer)
コンディション(condition)	コンテスト(contest)

注意すべきその他の「ク」音を表すスペリング：

-q-を用いる語：唇が丸まるのが特徴なので、それをスペリングに結びつけるよう指導する。

クエスチョン (question) クォーター(quarter)
クオリティ(quality) リキッド(liquid)
スクエア(square) スクイズ(squeeze)

-ch-を用いる語 :

クリスマス(Christmas) テクノロジー(technology)
テクニック (technique) スクール(school)
シンクロナイズ (synchronize)

(4) サ行音に対するスペリングを意識させる指導をする.

「サ」行音の[s]の音に対して-ce-や-se-のスペリングが多い。ライセンス(licence, license)のように、どちらも用いられる語もある。日本語表記では、日本語にない-th-の音を、[su]で代用してしまうのである。マウス(mouse, mouth)やバス(bus, bath)の場合はスペリングを書くときに間違いやすい。発音練習を繰り返し、スペリングに注意させる。

-c-を用いる語 :

サイクリング(cycling) シネマ(cinema)
サイバーテロ(cyber terrorism)

-s-を用いる語 :

サイン(sign) サービス(service) サーファー(surfer)
サバイブ(survive) サラダ(salad) サミット(summit)
システム(system) シングル(single) シリアス
(serious) シャワー(shower)

-th-を用いる語 :

バースデイ(birthday) マラソン(marathon) トラ
イアスロン(triathlon) サラブレッド(thoroughbred)
セラピー(therapy) セオリー(theory)

(5) 子音が続く語の発音とスペリングに注意させる.

日本語は、「子音+母音」の音構造を基本にしているが、

ト(street)は、そのいい例である。発音上の注意点は、子音と子音の間に母音を入れないよう指導する。すなわち、[t]音の後、舌先を歯茎からすべるように[r]音へ移る。舌を歯茎から離しすぎると母音が入り、スペリングも sutreet や storeet など誤ったスペリングを書いてしまう。

発音とスペリングを意識させるためのカタカナ語例 :
ストレート(straight) ストラップ(strap)
ストライク・ストライキ(strike)
スクリーン(screen) ス克蘭ブル(scramble)
ストラテジー(strategy)

次の子音連続の例は、調音点が移動しないので、舌の先(舌尖: tip of tongue)を歯茎から舌を離さないように指導して、スペリングを書くときには、子音字が重なることに注意させる。

チャンネル channel ランニング running
トンネル tunnel

4 まとめ

本稿では、カタカナ語を語彙指導に利用する場合の留意点の内、子音とスペリングに関する留意点の一部をまとめた。本稿で触れた以外にも、今後の課題として次の項目をあげて本稿を終わることとする。

- ① [f]音に対する-ph-のスペリングや多様な英語の母音に対応する日本語のカタカナ語の表記方法。
- ② 発音が、英語音とかなり異なるカタカナ語の例 : ウィルス(virus) , ワクチン(vaccine), プロフィール(profile)など。
- ③ アクセント位置の相違 : メッセージ(message), ダメージ(damage)など。
- ④ 統語上の単数・複数の問題 : 1 フィート(one foot), サングラス(sunglasses), マナー(manners)。
- ⑤ 過去分詞の形容詞用法の例 : フライドチキン(fried chicken), ステンドグラス(stained glass), プリペイドカード (prepaid card)。
- ⑥ 短縮されたカタカナ語 : ダイヤ(diamond, diagram), マスコミ(mass communication)など。
- ⑦ 和製英語の問題。

資料1 平成21年度 総合英語Ⅲ 前期期末試験 (一部抜粋)

[1] 次のカタカナ語を英語で書きなさい。

1. リラックス 2. ブランド 3. コーヒー 4. パスポート 5. ロボット

資料2 カタカナ語を利用して、英単語力をつけよう

クラス No. 氏名 _____

[1] 次のカタカナ語にあたる英語のスペリングを選び、記号を○で囲みなさい。

1. ライセンス ア) licence イ) license ウ) ricense エ) risense
2. リラックス ア) lilax イ) lelacs ウ) relax エ) relaks
3. ロボット ア) lobbot イ) lobot ウ) robot エ) robbot
4. レストラン ア) lestoran イ) lestaulan ウ) restorant エ) restaurant
5. サイエンス ア) sciense イ) science ウ) csience エ) saience

[2] 次のカタカナ語を英語で下線部に記入しなさい。

6. コンピュータ _____ 7. イーメール _____
8. インターネット _____ 9. ダウンロード _____
10. アドレス _____ 11. ソフトウェア _____

[3] 日本語の意味になるように、カタカナ語にあたる英語を下線部に記入しなさい。

12. How many hours do you watch _____ every day?
毎日、何時間テレビを見ますか。

13. Do we need _____?
サングラスが必要ですか。

14. Where is the nearest _____?
一番近くにあるトイレは、どこですか。

15. Watch your _____.
マナーに気をつけなさい。

16. You can buy it at the _____ over there.
それならあそこのスーパーで買えますよ。

17. My brother lives in an _____ in Tokyo.
兄は、東京でアパート暮らしをしています。

18. Do you see a tall _____ over there?
あそこにある高いビルが見えますか。

参考文献

- 阿部一(1994)『カタカナ英語の勘違い』日本経済新聞社
- 石綿敏雄(1983)『外来語と英語の谷間』秋山書店 日英対照言語学的
- 高本捨三郎(1978)『英語の発音とヒアリング』南雲堂
- 加島祥造(1994)『カタカナ英語の話』南雲堂
- 脇山 怜(1985)『和製語から英語を学ぶ』新潮社
- Miura, Akira(1979). English Loanwords in Japanese. Tokyo:Tuttle